今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成２８年４月２５日（月）～５月１日（日）〔第１７週〕及び５月２日（月）～５月８日（日）〔第１８週〕の感染症発生状況

第１７・１８週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎　2）Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎　3）インフルエンザでした。
第１７週は、感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数が６．６８人と前週（６．９７人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
第１８週はゴールデンウィークで、多くの医療機関が休診であったため、ほとんどの疾患で報告数が減少しています。

～海外旅行後の体調の変化に注意しましょう！～

海外旅行後の体調不良には、思わぬ感染症が潜んでいる可能性があります。特に発展途上国を旅行した場合、少なくとも６か月間（主に帰国後２週間）は、体調の変化に注意して下さい。

帰国後、**下痢等の胃腸症状**や**発疹・発熱等の症状**が見られた場合には速やかに医療機関を受診しましょう。**医療機関の受診にあたっては、症状に加えて旅行先・旅行期間・旅行目的・旅行中の行動・宿泊先の状況（虫除け対策の有無）・旅行前の予防接種歴等の情報を整理して必ず医師に伝えましょう。**

医療機関にかかる前の情報整理に、厚生労働省検疫所（FORTH）のチェックシートも参考になります。

URL:http://www.forth.go.jp/useful/attention/pdf/29.pdf

海外で見られる感染症の主な流行地域

- デング熱：アフリカ地域、アメリカ地域、東地中海地域、東南アジア地域、西太平洋地域の熱帯・亜熱帯地域
- マラリア：アジア、オセアニア、アフリカおよび中南米の熱帯・亜熱帯地域
- ジカウイルス感染症：中南米地域
- コレラ：アフリカ、アジア、中南米の一部の地域
- 狂犬病：アフリカ、アジア、中南米のほとんどの地域
- MERS(中東呼吸器症候群)：アラブ首長国連邦、イエメン、オマーン、カタール、クウェート、サウジアラビア、ヨルダン

発行　川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター
（問い合わせ先）　０４４－２７６－８２５０

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成２８年５月９日（月）～平成２８年５月１５日（日）〔平成２８第１９週〕の感染症発生状況

第１９週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎　2)Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎　3)流行性角結膜炎でした。
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は５．０８人と前週（３．９５人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は３．５１人と前週（２．３０人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は２．３３人と前週（１．６７人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。

これから注意したい感染症～咽頭結膜熱～

現在、全国的に咽頭結膜熱の患者報告数が増加しています。川崎市においても第１６週以降徐々に報告数が増えてきました。例年、６月頃から流行が始まり７～８月にピークとなるので、今後はさらに患者数の増加が予想されます。

咽頭結膜熱ってどんな病気？

- ●原因：アデノウイルス
- ●主な症状等：発熱・咽頭炎・結膜炎
- ●潜伏期間：５～７日
  小児（特に５歳以下）に多い
- ●感染経路：患者の咳やくしゃみ等に含まれるウイルスが、直接あるいはタオルやプールの水等を介して口や眼の粘膜等から侵入する接触・飛沫感染

予 防 方 法

- ✓タオル類やおもちゃの共用は避ける
- ✓流水や石鹸による手洗いを徹底する
- ✓プール利用前後にシャワーを浴びる

川崎市における咽頭結膜熱発生状況

塩素消毒をしていないビニールプールを利用する際にはこまめに水を替える等配慮をお願いします！

発行　川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター
（問い合わせ先）　０４４－２７６－８２５０

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成２８年５月１６日（月）～平成２８年５月２２日（日）〔平成２８年第２０週〕の感染症発生状況

第２０週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎　2)Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎　3)流行性角結膜炎でした。
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は６．５７人と前週（５．０８人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。
Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は３．４９人と前週（３．５１人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は１．１１人と前週（２．３３人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。

気を付けたい感染症～流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）～

２０１５年１１月頃から、川崎市内での流行性耳下腺炎の報告数が増加しています。過去５年間平均と比較しても高いレベルで推移しており、現在、中原区・多摩区での報告数が多くなっています。

流行性耳下腺炎ってどんな病気？

- ●病原体：ムンプスウイルス
- ●潜伏期間：２～３週間
- ●感染経路：接触・飛沫感染
- ●好発年齢：３～６歳の小児
- ●症状：両側又は片側の耳の下の腫れや痛み、発熱等がみられますが、通常は１～２週間で軽快します。また、感染しても症状が出ない方（不顕性感染）も多いと言われています。
- ●合併症：髄膜炎・睾丸炎・卵巣炎・難聴などがあり、特に妊婦では感染すると自然流産することもあります。
- ●治療法：特別な治療はありません。
- ●予防方法：ワクチン接種

川崎市の流行性耳下腺炎発生状況

川崎市の流行性耳下腺炎分布マップ（第２０週）

川崎市感染症情報発信システム（KIDSS）

発行　川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター
（問い合わせ先）　０４４－２７６－８２５０

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成２８年５月２３日（月）～平成２８年５月２９日（日）〔平成２８年第２１週〕の感染症発生状況

第２１週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎　2)Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎　3)突発性発疹でした。
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は７．６２人と前週（６．５７人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は４．０３人と前週（３．４９人）から増加し、例年よりやや高いレベルで推移しています。
突発性発疹の定点当たり患者報告数は１．１６人と前週（０．８４人）から増加し、例年より高いレベルで推移しています。

～知っていますか？突発性発疹～

突発性発疹はヘルペスウイルス６型または７型のウイルスを原因とする疾患で、ほぼすべての小児が３歳までにかかります。

年間を通じて大きな変動は見られませんが、今年は川崎市における平成２８年第２１週（５月１６日～２２日）の定点当たりの患者報告数が1.16 人と大幅に増加しました。

川崎市の突発性発疹発生状況

突発性発疹の特徴は？

- ●潜伏期間：約１０日
- ●感染経路：家族など成人の唾液に含まれるウイルスによる感染
- ●好発年齢：６ヶ月～１歳半
- ●症状：突然の高熱が３日間程度続き、解熱とともに発疹が出現（体幹部・顔面・四肢）します。おおむね経過は良好ですが、熱性けいれんや、まれに脳炎等の合併症がおこることがあります。
- ●治療法：特別な治療はありません。

平成２５～２７年川崎市突発性発疹年齢別発生状況
（市内定点医療機関からの報告数）

発行　川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター
（問い合わせ先）　０４４－２７６－８２５０

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成２８年５月３０日（月）～平成２８年６月５日（日）［平成２８年第２２週］の感染症発生状況

第２２週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎　2)Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎　3)流行性角結膜炎でした。
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は９．０５人と前週（７．６２人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。
Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は３．４３人と前週（４．０３人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は１．３３人と前週（１．１１人）から増加し、例年より高いレベルで推移しています。

～食中毒に注意しましょう！！～

夏に向けて気温や湿度が高くなると、細菌による食中毒の発生が多くなります。カンピロバクターを原因とする細菌性食中毒は、近年発生件数が非常に多く、国内では年間約２５０～３５０件、患者数は約１，５００～３，０００人程度にも上ります。

カンピロバクターとは？

家畜からペットまで多くの動物が腸管内にカンピロバクターを保菌しています。

●感染経路：汚染された食品や水を介する経口感染。市販の鶏肉の約４割が汚染されているといわれています。

●潜伏期間：２～５日間

●症状：下痢、血便、腹痛、発熱、嘔吐など。多くは１週間ほどで回復。乳幼児や高齢者、抵抗力の弱い方では重症化する危険性もあります。

※感染して数週間後に、ギラン・バレー症候群を起こす可能性があることが知られています。

平成２７年原因細菌別食中毒発生状況（全国）

ギラン・バレー症候群

感染などをきっかけとして、全身の麻痺がみられる疾患です。原因となる感染症の約３０％がカンピロバクターといわれています。

発行　川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター
（問い合わせ先）　０４４－２７６－８２５０

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成２８年６月６日（月）～平成２８年６月１２日（日）［平成２８年第２３週］の感染症発生状況

第２３週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎　2)Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎　3)流行性角結膜炎でした。
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は８．７３人と前週（９．０５人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は４．３５人と前週（３．４３人）からやや増加し、例年並みのレベルで推移しています。
流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は１．８９人と前週（１．３３人）から増加し、かなり高いレベルで推移しています。

これから増える感染症～手足口病・ヘルパンギーナ～

例年、夏に向けて「手足口病」や「ヘルパンギーナ」などが流行します。いずれもコクサッキーウイルスＡ6、Ａ１６やエンテロウイルス７１などを原因とし、一度感染しても別のウイルスに再び感染することもあります。５歳以下の小児がほとんどで、典型的な症状は以下のとおりです。

手足口病の症状

●手のひら、足のうら、口の中などに水疱性の発疹

●発熱（３８℃以下のことが多い）

●通常は軽症

※まれに重症化して髄膜炎や脳炎などを引き起こすことがある。

ヘルパンギーナの症状

●突然の高熱（３８～４０℃）

●咽頭痛（のどの痛み）、のどに白い水疱性の発疹や潰瘍

●通常は２～４日程度で解熱し、予後良好

※発熱に伴う熱性けいれんやまれに髄膜炎、心筋炎などを併発することがある。

⇨ 口の中の水疱が痛くて十分に水分が摂れず、**脱水症状**を起こすことがあります。こまめな**水分補給**が重要です。

症状回復後も長期（約１ヶ月）にわたりウイルスが排出されるので、トイレやおむつ交換の後は手洗いや手指の消毒を心がけましょう。

発行　川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター
（問い合わせ先）　０４４－２７６－８２５０

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成２８年６月１３日（月）～平成２８年６月１９日（日）〔第２４週〕の感染症発生状況

第２４週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎　2)Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎　3)流行性角結膜炎でした。
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は７．１６人と前週（８．７３人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。
Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は３．７８人と前週（４．３５人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は１．７８人と前週（１．８９人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。

～蚊が媒介する感染症に気をつけましょう～

蚊が媒介する感染症には、昔から知られている日本脳炎のほか、輸入感染症としてデング熱、チクングニア熱、ジカウイルス感染症などがあります。症状は様々で、同じ時期に流行する他の感染症と見分けがつきにくいこともあります。

輸入感染症とはいえ、国内に生息するヒトスジシマカ（ヤブカの仲間）が媒介となる感染症もありますので、これからの季節は蚊の対策が重要です。

背中の白いスジが特徴

（ヒトスジシマカ）

増やさない！

幼虫の発生源をなくす！！

不要なものは**廃棄**し、溜まった水は週に一度**ひっくり返し**ましょう。

- ◆ 放置された空き缶、ペットボトル
- ◆ 雨ざらしのバケツ、おもちゃ
- ◆ 水の溜まった植木鉢、埋設型散水栓
- ◆ 水の溜まったビニール、古タイヤ

さされない！

- ◆ やぶ、草むらは刈り取る
- ◆ 網戸、蚊帳で侵入を防ぐ
- ◆ 外での作業時は長袖・長ズボンを着用
- ◆ 次の成分を含む虫除け剤をこまめに塗る
- ➢ DEET（N,N-ジエチル-3-メチルベンズアミド）注)生後6か月以上に使用
- ➢ **イカリジン**（2015 年に認可）

発行　川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター
（問い合わせ先）　０４４－２７６－８２５０

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成２８年６月２０日（月）～平成２８年６月２６日（日）〔平成２８年第２５週〕の感染症発生状況

第２５週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎　2)流行性角結膜炎　3)Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は６．６５人と前週（７．１６人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は３．１１人と前週（１．７８人）から増加し、かなり高いレベルで推移しています。
Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は３．００人と前週（３．７８人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

急増しています！！～流行性角結膜炎～

川崎市において、６月に入り流行性角結膜炎の報告数が急増しています。第２５週の定点当たり報告数は３.１１人となり、同週までの累積は過去１０年間で最多となりました。特に麻生区で定点当たり報告数が１３人と多く、警報レベル（定点当たり８人）を超えています。

流行性角結膜炎は、**涙が出る、目やにが出る、目が充血する**などの症状が出現し、乳幼児では細菌の混合感染により重症化することもあります。

場合によっては失明することもあるため、こすらないよう注意して、早めに眼科を受診しましょう。

接触により感染します。ウイルスで汚染されたティッシュペーパー等は適切に廃棄し、タオルの共用は避けましょう。

川崎市の流行性角結膜炎発生状況

川崎市の流行性角結膜炎分布マップ（第２５週）

川崎市感染症情報発信システム（KIDSS）

発行　川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター
（問い合わせ先）　０４４－２７６－８２５０

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成２８年６月２７日（月）～平成２８年７月３日（日）〔平成２８年第２６週〕の感染症発生状況

第２６週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎　2)Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎　3)流行性角結膜炎でした。
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は６．８１人と前週（６．６５人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は３．７０人と前週（３．００人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。
流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は２．７８人と前週（３．１１人）から横ばいで、かなり高いレベルで推移しています。

そろそろ流行か！？～ヘルパンギーナ～

川崎市におけるヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は、第２６週（平成２８年６月２７日～平成２８年７月３日）に２．５７人となり、１週前の０．７０人から急激に増加しました。今年は、昨年に比べ「手足口病」よりも「ヘルパンギーナ」の報告数が多く、７月末の流行のピークに向けて、さらに増えることが予想されます。

ヘルパンギーナってどんな病気？

感染経路：飛沫感染、糞口感染（便中に排泄されたウイルスが口に入って感染）
潜伏期間：２～４日
症状：突然の高熱（３８～４０℃）、のどの痛み、のどに白い水疱性の発疹や潰瘍
一般には軽症（数日で軽快）
予防：糞便へのウイルス排出は発症から数週間持続するため、オムツ交換時等の排泄物の適切な処理、手洗いの徹底

合併症：発熱に伴う熱性けいれん
まれに髄膜炎、心筋炎などを併発

川崎市におけるヘルパンギーナ発生状況
―平成２８年と過去５年間平均の比較―

川崎市のヘルパンギーナ分布マップ
（第２６週）

川崎市感染症情報発信システム（KIDSS）

発行　川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター
（問い合わせ先）　０４４－２７６－８２５０

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成２８年７月４日（月）～平成２８年７月１０日（日）〔平成２８年第２７週〕の感染症発生状況

第２７週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎　2)ヘルパンギーナ　3)Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は５．３０人と前週（６．８１人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。
ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は４．５４人と前週（２．５７人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。
Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は３．１６人と前週（３．７０人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

増えています！！～流行性耳下腺炎～

第２７週の流行性耳下腺炎の定点当たり報告数が１．６８人となり、前週の０．８６人から急増しています。特に、高津区で定点当たり報告数が４．８３人と、注意報基準値（３人）を超えました。また、年齢階級別では、５～７歳での報告が多くなっています。

特徴
- ●２～３週間の潜伏期間（平均１８日前後）
- ●主症状は、耳下腺（両側あるいは片側）の突然の腫れと痛み、発熱
- ●通常は７～１０日で軽快
- ●感染しても症状が出ない人（不顕性感染者）が１／３程度

川崎市の流行性耳下腺炎
年齢階級別発生状況（第２７週）

川崎市の流行性耳下腺炎発生状況

川崎市の流行性耳下腺炎分布マップ
（第２７週）

川崎市感染症情報発信システム（KIDSS）

発行　川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター
（問い合わせ先）　０４４－２７６－８２５０

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成２８年７月１１日（月）～平成２８年７月１７日（日）〔平成２８年第２８週〕の感染症発生状況

第２８週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)ヘルパンギーナ　2)感染性胃腸炎　3)Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は７．８４人と前週（４．５４人）から増加し、例年より高いレベルで推移しています。
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は５．７３人と前週（５．３０人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は２．９５人と前週（３．１６人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています

ヘルパンギーナ流行発生警報発令！！

ヘルパンギーナの患者報告数が３週連続で大幅に増加しており、第２８週の定点当たり患者報告数が７．８４人と、警報基準値（６人）を超えたため、市内に流行発生警報を発令しました。

原因ウイルスは、コクサッキーウイルスやエコーウイルスなど様々です。今年度、健康安全研究所にヘルパンギーナとして搬入された検体からは、コクサッキーウイルスＡ4型、A2 型、B5 型などが検出されています。

注意点

咳・くしゃみや便中に排泄されたウイルスが口に入ることで感染します。症状改善後も便中には約１か月間にわたり、ウイルスが排出されます。

通常の手洗いに加え、特にトイレやオムツ交換の後は念入りに手を洗いましょう。

川崎市におけるヘルパンギーナ発生状況
―平成２８年と過去５年間平均の比較―

口の中にできた水疱の痛みにより、水分が十分にとれないことがあります。こまめに水分をとり、脱水症を予防しましょう。

発行　川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター
（問い合わせ先）　０４４－２７６－８２５０

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成２８年７月１８日（月）～平成２８年７月２４日（日）〔平成２８年第２９週〕の感染症発生状況

第２９週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)ヘルパンギーナ　2)感染性胃腸炎　3)流行性角結膜炎でした。
ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は７．２４人と前週（７．８４人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は４．２７人と前週（５．７３人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。
流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は２．８９人と前週（１．８９人）から横ばいで、かなり高いレベルで推移しています。

注意すべき感染症～百日咳～

百日咳は、近年思春期や成人での患者数が増えており、川崎市においても２０歳以上での報告が半数以上を占めます。成人では、症状が典型的でないことが多く、病院への受診や治療が遅れることで、ワクチン未接種の乳幼児への感染源となります。ワクチン未接種児の場合は、９０％以上が感染し、１歳以下（特に６ヶ月未満）の乳児では、死に至る危険性が高い感染症です。

川崎市における百日咳発生状況（年齢階級別）
-平成２６年第１週から平成２８年第２９週までの報告数-

カタル期や痙咳期に菌を排出します。
感染を広げないために、咳エチケット（マスクの着用など）が重要です。

百日咳ってどんな病気？

感染経路：咳やくしゃみなどによる飛沫・接触感染。
症　状：
カタル期（１～２週間）:かぜ症状で始まり、咳の回数が増え程度も激しくなる。
痙咳期（３～６週間）:特徴的な咳となる。
短い咳が連続的に起こり、続いて息を吸う時に笛の音のような音が出る。
回復期:特有な咳込みが次第に減少する。
時折、咳発作が出ることがある。
治　療： 適切な抗菌薬による治療により、服用開始から５～７日で百日咳菌はほぼ陰性となる。
予防方法： 予防接種が有効。
（ワクチンの免疫持続効果は４～１２年）

発行　川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター
（問い合わせ先）　０４４－２７６－８２５０

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成２８年７月２５日（月）～平成２８年７月３１日（日）〔平成２８年第３０週〕の感染症発生状況

第３０週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)ヘルパンギーナ　2)感染性胃腸炎　3)流行性角結膜炎でした。
ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は９．５０人と前週（７．２４人）から増加し、例年より高いレベルで推移しています。
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は５．０６人と前週（４．２７人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。
流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は１．８９人と前週（２．８９人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。

腸管出血性大腸菌感染症にご用心！！

川崎市内では６月下旬以降、腸管出血性大腸菌感染症（Ｏ１５７など）が毎週発生しており、第３０週（平成２８年７月２５日～７月３１日）には２件の届出がありました。例年、患者数は８月下旬頃にピークとなります。

腸管出血性大腸菌感染症とは？

➢ **感染経路**

・菌に汚染された食品や患者の便で汚染されたものを口にすることで感染
（咳・くしゃみ・汗などでは感染しません。）

➢ **潜伏期間**

・２～１４日（平均３～５日）

➢ **主な症状**

・激しい腹痛や頻回の水様性下痢
・著しい血便を伴うこともある。

※子どもや高齢者は、溶血性尿毒症症候群（ＨＵＳ）や脳症などの重症合併症を起こしやすいといわれています。激しい腹痛や血便がある場合には、直ちに医療機関を受診しましょう。

川崎市における腸管出血性大腸菌感染症発生状況
-平成２８年（第３０週まで）と過去５年間平均の比較-

<感染予防のポイント>

・生肉または加熱不十分な肉を食べない。
（加熱は７５℃で１分間以上）
・生野菜などはよく洗う。

・調理前、食事の前にはしっかり手を洗う。

発行　川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター
（問い合わせ先）　０４４－２７６－８２５０

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成２８年８月１日（月）～平成２８年８月７日（日）〔平成２８年第３１週〕の感染症発生状況

第３１週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)ヘルパンギーナ　2)感染性胃腸炎　3)流行性角結膜炎でした。
ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は６．４２人と前週（９．５０人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は５．０３人と前週（５．０６人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。
流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は２．１１人と前週（１．８９人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。

～食中毒警報が発令されました！！～

神奈川県で食中毒発生の可能性が高まったことから、**平成２８年８月３日に食中毒警報を発令**しました。今年は昨年より１１日遅い発令日となりました。

また、川崎市内においても、第３１週（平成２８年８月１日～８月７日）に腸管出血性大腸菌感染症（Ｏ１５７等）の届出が４件あり、患者数が増加しています。

川崎市における腸管出血性大腸菌感染症発生状況
-平成２８年（第３１週まで）と過去５年間平均の比較-

食中毒予防の３原則

つけない

十分な手洗い！
器具を清潔に！

増やさない

適切な保存！
冷蔵や冷凍！

やっつける

十分な加熱！
器具の消毒！

発行　川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター
（問い合わせ先）　０４４－２７６－８２５０